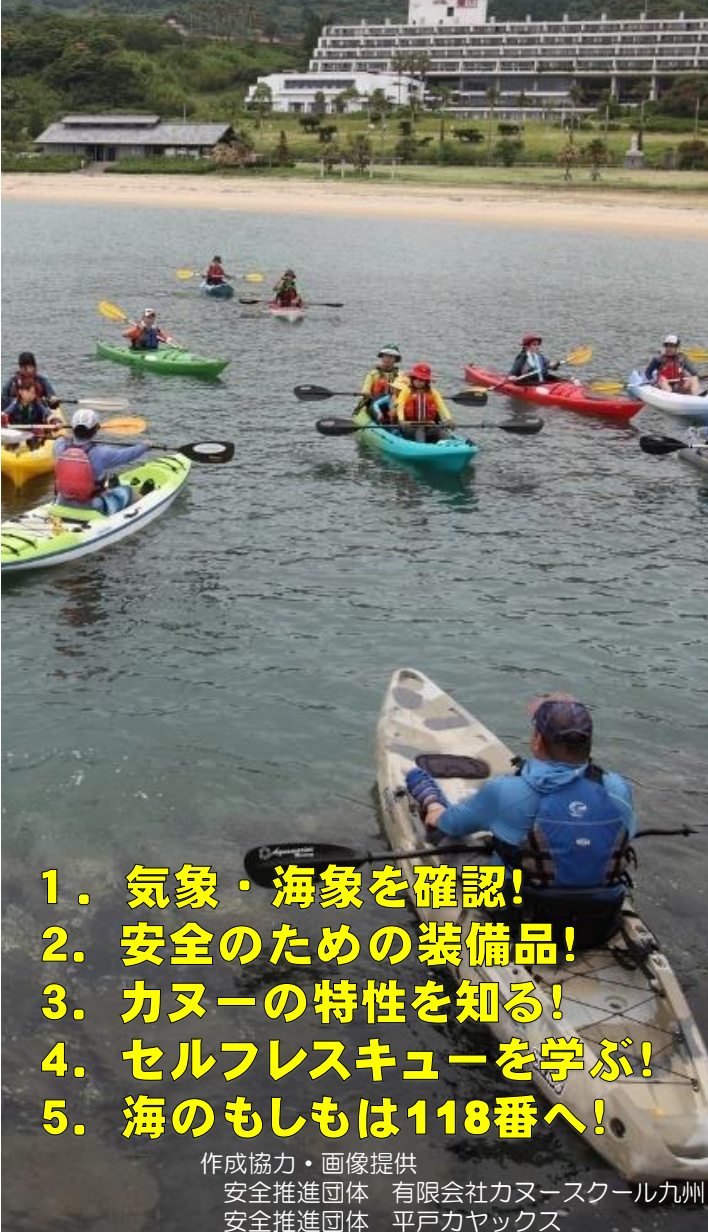


知ってほしい5つのこと ～カヌーに乗る前に～



1. 気象・海象を確認!
2. 安全のための装備品!
3. カヌーの特性を知る!
4. セルフレスキューを学ぶ!
5. 海のもしもは118番へ!

作成協力・画像提供
安全推進団体 有限会社カヌースクール九州
安全推進団体 平戸カヤックス

海でのレクリエーションで使用されるカヌーの代表的なもの、シーカヤックとシットオン(トップ)カヤックと呼ばれ、船体の特性によって耐航性がまったく異なる特徴があります。カヌーに乗る前に知って欲しい5つの注意事項をまとめてみました。

気象・海象を確認!

カヌーには様々な種類がありますが、近くに海(水)を感じられるスポーツとしてシーカヤックやシットオンカヤックの利用が増えています。一方、波風で転覆して復元できないまま漂流したり、風で沖合に流され、体力を消耗し、漕ぐ力がなくなり帰還できない等の事故も発生しています。

カヌーは、自然環境、立地条件によって強い風や波の影響を受けます。

あるショップのインストラクターによれば、初心者の体験ツアーは平均風速が3m/s以下(そよ風程度)が望ましく、潮流域での活動は漕ぎ手の体力消耗が激しくなるので、お勧めできないとのことです。

海に出る前に気象海象を確認するのみならず、実際に利用する海域の自然環境等を現場で確認することが重要です。

※過去10年間全国でカヌーの海難は326件発生しており、その原因のうち3分の1が気象海象の確認不足となっています。次いで、操船技能不足、整備不良の順で多くなっています。

カヌーでの釣り中の事故 ～気象海象に注意しよう!～



令和元年11月27日(水)0730頃、男性1名は佐賀県唐津市所在の波戸海水浴場からカヌーを下ろし、波戸岬沖合で魚釣りを開始した。

釣りをしていたところ、陸風が次第に強まり、沖に流されたことから、陸向け必死に漕ぐも全く前進できず、身の危険を感じたことから118番通報したものの、男性は、巡視艇によりカヌーとともに無事救助された。

安全のための装備品!

カヌーは、海(水)に近いスポーツで海中転落や転覆することが前提です。安全確保のためにカヌー本体、パドル以外に次の装備を推奨します。

- ライフジャケット
命を預ける救命具です。十分な浮力のあるものを!
- 防水パック入り携帯電話
ポケットに入れただけは海に落とし、使用できなくなります。万が一の場合の連絡手段の確保を!
- 専用のウエア
綿製の衣類は濡れると乾きにくい! 低体温症予防のため専用のウエアを!
- 排水具
シーカヤックの艇内に入った水を排出しないと不安定になり、再転覆しますよ! ビルジポンプやスポンジなどを準備しましょう!
- 飲料水
熱中症や脱水症予防にこまめに水分補給を!
- 予備パドル
パドルの破損や流出に備え持っておくと安心!
- パドルフロート
再乗艇の際に、パドルに装着して、カヌーを安定させるために使用します。



また、万が一流出した場合に備え、連絡先等を記載しておくで安心です。

海のもしものは118番へ!

海上保安庁では、海上における事件事故の緊急通報電話番号として118番を運用しています。

いつ、どこで、なにがあったなどを落ち着いて通報してください。通報するときに携帯電話であれば、携帯電話のGPS機能をONにした状態で通報すると、通報者の具体的な位置が海上保安庁に通知されます。

また、聴覚や発話に障がいを持つ方を対象に、スマートフォン等を使用し、入力操作により海上保安庁への緊急時の通報が可能となる、**NET118**というサービスも運用しています。

海の安全情報

全国各地の灯台などで観測した風向、風速、波高などの局地的な気象・海象の状況、海上工事の状況、海上模様が把握できるライブカメラなどの情報をリアルタイムに提供しています。

七管区海の安全情報トップページ
<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/O7kanku/>



カヌーに関する情報

カヌーの安全運航に関する情報は、ウォーターセーフティガイド(カヌー編)をご覧ください。



七管区内のカヌースクール情報

七管区内のカヌーに関する講習会を実施している場所は、以下のリンク先から確認できます。

◎日本セーフティカヌーイング協会(JSCA)が公認するスクールの一覧はこちら◇ <https://isca.net/school>



◎日本ライフセービング協会(JLA)が公認する講習会の開催場所・日程についてはこちら◇ <https://ls.jla-lifesaving.or.jp/>



◎日本カヌー連盟傘下の日本レクリエーションカヌー協会(JRCA)が公認する講習会の開催場所・日程についてはこちら◇ <http://www.j-rca.org/>



セルフレスキューを学ぶ!

カヌー、正しい知識と技術がなければ、悲惨な事故に繋がりがかねません。

初めてカヌーに乗る際は、ショップやクラブが開催する講習会に参加し、セルフレスキュー(再乗艇)の指導等を受け、正しい知識をマスターすることをお勧めします。

カヌーは、波や風の影響等により簡単に沈(転覆)すると思っちんて下さい。

万一沈した場合でもパニックに陥らずセルフレスキューできるように必要な沈脱(沈した船からの脱出)やロール(沈脱をせずにカヌーを起き上がらせる技術)などの技術を必ず身につける必要があります。

・シットオンカヤックでのセルフレスキューの例



～ グループレスキュー ～

近くにインストラクターや経験者がおり、沈した場合、グループレスキュー(補助救援行動)でセルフレスキューを補助してくれる場合があります。

今行くぞ!



カヌーの特性を知る!

カヌーは使う水域等によって種類があり、種類ごとにモデルがあります。

カヌーの種類の例

★シーカヤック

細身でバランスが取りづらいがスピードが出る。前後に水密の荷室とハッチが設けられているものもあります。



★シーカヤック

★シットオンカヤック

外観上は分厚いボード状の構造であり、浮力を得るためにボードの中が中空となっているため、安定性は良いが風の影響がシーカヤックに比べ大きくなります。



★シットオンカヤック

カヌーは、荷室やハッチ、ボードの中を中空とし、浮力を確保しています。

ハッチカバーやドレンプラグ(艇内に水の浸入を防止するプラグ)がしっかり閉まっているか確認しないと浸水し、沈むおそれがあります!

ハッチカバーを閉めましょう



カヌーは航行中の船舶から視認しにくく、レーダーにも映りにくいです。

そのため、船からの視認性向上のため、カヤックフラッグを掲げましょう。掲揚する際は、無風時でも形状が崩れず視認性の高い色を選びましょう。

カヤックフラッグ

